

令和元年度アーバンデザインスクール後期第1回実績報告書

(1) 開催日時

令和元年11月20日（水） 18時30分～20時

参加人数：23名

(2) テーマ

小さな空間から都市をプランニングする

「なぜ小さな空間から都市をプランニングするのか」

(3) 話題提供者

武田重昭（大阪府立大学大学院生命環境科学研究科准教授）

阿部大輔（龍谷大学政策学部教授）

(4) 話題の概要

- 今年出版された『小さな空間から都市をプランニングする』（学芸出版社）の著者のうち8名によるシリーズ講義として、武田史朗氏（UDCBK 副センター長・立命館大学理工学部教授）にコーディネート頂く。
- 第1回は、武田重昭氏と阿部大輔氏に「なぜ小さな空間から都市をプランニングするのか」をテーマに話題提供頂いた。
- 本シリーズ講義の目標
 - はじめから都市の全体を理論で構築するのではなく、具体的な空間での解を重ねた先に都市の全体を連想させるような方法について、シリーズ講義を通して追体験してもらう。
 - 参加者との議論を通じて、草津の実際の空間の作り方を考えることで、大きな都市に与える変化の兆しを好ましい方向に導くような機会とする。



- 研究会の流れ
 - 「都市空間のつくり方研究会」は、2013年に日本都市計画学会の社会連携交流組織として発足。
 - それ以前には「次世代の『都市をつくる仕事』研究会」として「都市をつくる仕事」について論考をまとめ、2011年に『いま、都市をつくる仕事』（学芸出版社）を出版。
 - その後、「仕事」についてというテーマから、「空間」についてテーマが移って今に至る。

- 「いい都市空間」について
 - どのような都市空間を事例調査の対象にするのかを、研究会で検討。
 - まちづくりの公共性についてや、プランニングと偶発性についてなど、さまざまな視点から検討。
 - 合意したものについては研究会にて継続研究し、書籍化に至った。

- 小さな空間
 - 現代では、個々の空間は質が高く、うまくマネジメントされている事例がたくさんある。
 - しかし、その空間にいるときは心地良くても、外に出るとまちとの繋がりを持たないという問題がある。
 - 例えば大阪に居ても、丸の内にも、同じ空間の魅力を味わっているような気持ちがある時がある。その空間に居る時は魅力的で幸せだけれど、離れてしまうとまちと関係性を持たない空間。
 - 小さな空間の価値を、いかに大きな都市へつなぐことができるかという視点が重要である。

- 都市空間のレシピ
 - ピックアップした都市空間のつくり方をレシピに例えて、公開研究会にて議論。
 - 「WHAT: 都市空間の魅力とは何か?」「HOW: それはどのようにつくられたのか?」を中心にまとめ、事例に見る都市空間の作り方のコツを抽出。



- 空間から都市の順序で
 - マスター計画的都市づくりというより、空間の積み重ねの先に都市がどう変わるか。小さく空間のつくり方を変えると大きく都市が変わるのではないか、という視点。
 - 小さな空間を変えていくことで、都市全体としての魅力をつくるのが可能になるはずである。

- 事例紹介
 - 『小さな空間から都市をプランニングする』で扱われている事例について紹介。
 - 前例によらない行政の挑戦として、なぎさのテラス（大津市）、道後温泉（松山市）、みなと大通り公園（鹿児島市）、KIITO（神戸市）、まちなか防災空地（神戸市）、みんなのひろば（松山市）の事例を紹介。
 - ビジョンを示す民間の選択として、浮庭橋（大阪市）、丹波篠山（丹波篠山市）、北加賀屋（大阪市）の事例を紹介。
 - 自負心が支える市民の営みとして、姉小路界限（京都市）、仏生山まちぐるみ旅館（高山市）、おやすみ処ネットワーク（戸田市）、コトブキ（豊岡市）、奈良町（奈良市）、善光寺門前（奈良市）の事例を紹介。多額の予算をかけている訳ではない事例である。
 - 良い空間は必ずしもプランニングされていないという矛盾の存在。

（5）主な質疑応答

- まちを変えていく過程で苦労した話や、または普通な場所がこんな風変わったという話があれば教えてほしい。
 - 仏生山の事例を通して思うことは、特別な資源がなくても、そのまちで暮らしていく覚悟がある人がいて、その人を中心にゆっくりまちを変えようという姿勢があれば、まちは少しずつよくなっていく。どのまちでもそれは可能なのではないかと。（武田重昭先生）
 - 例えばある1つの建物のリノベーションを集団でしっかりやること。1つでもそういう動きがあれば、そこにフォロワーも出てくる。1つ面白い空間があって、そこを使うことが日常となり、動きを広げていけると、まちに居場所が広がる。（阿部大輔先生）

- 行政に期待することは何か。
 - 今日のような場所で市民の方々と一緒にやることは、行政に求められている役割ではないか。この働きを最大化して全体のパフォーマンスを高めるフォ

ロワーシップが重要。(武田重昭先生)

- ▶ なぎさのテラス(大津市)の事例は、行政がリーダーシップを取った事例。行政だからこそその権限を上手く使いながらリーダーシップを取れば、まちが変わる。(阿部大輔先生)

- リノベーションが流行っているが、実際には解体して新しいものを建てた方がそのまちにとって良い場合もあると思う。リノベーションはその都市にとって良いことなのかどうか、意見をもらいたい。
 - ▶ 今だけ、ここだけ思考が多いのは良くないことだと思う。リノベーションした建物だけがよくなっても都市がよくなることにはつながらない。もちろんリノベーションによって都市全体が良くなることもある。都市全体のことを考えたリノベーションになっていることが大事。(武田重昭先生)
 - ▶ リノベーションは予算のこともある。崩して新しいものを建てた方がお金はかからないことが多いが、お金を使ってリノベーションした方が面白いと思う人たちがたくさん出てきたということ。リノベーションは変化を止めている訳ではない。変化の一部としてリノベーションがある。(阿部大輔先生)

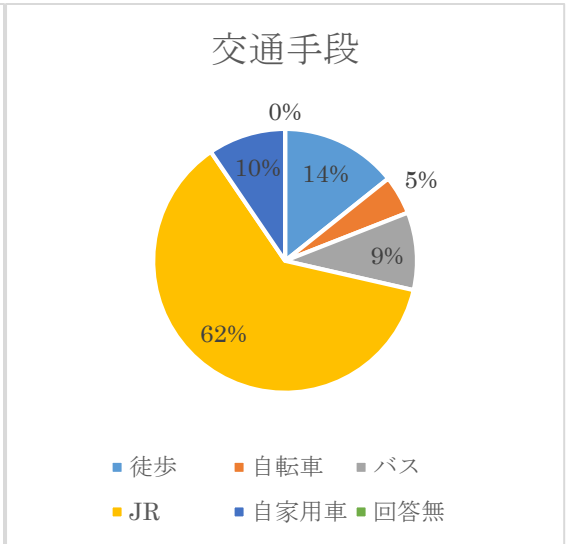
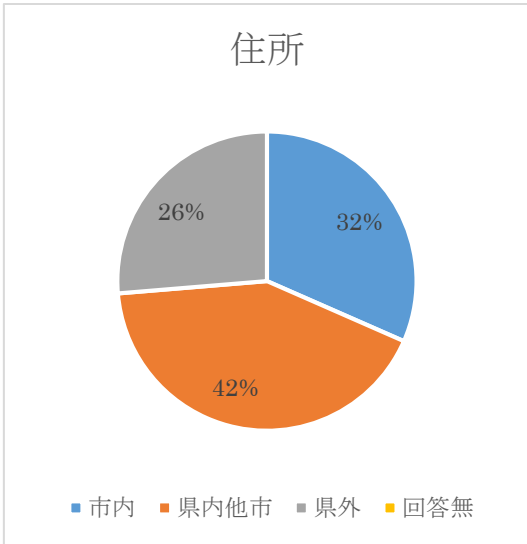
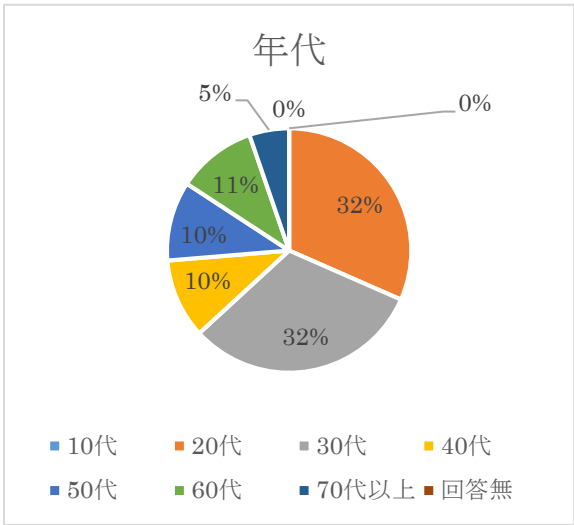
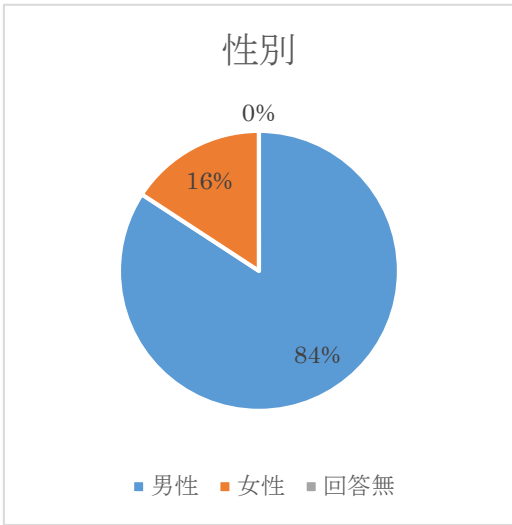
(6) まとめ

次回から具体的な事例を掘り下げていくにあたり、初回である今回は総論、および研究会の変遷などについてお話しいただいた。小さな空間を変えていくことで、都市に影響を与えることができるという可能性を理解し、次回以降のスクールにて、今後の具体的な事例を学んでいくことが期待される。

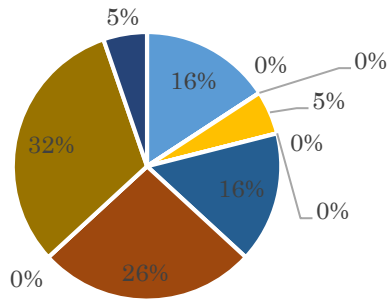
(7) アンケートまとめ

① 参加者属性

参加者23名のうち、アンケートに回答いただいた方は19名、回答率は83%だった。

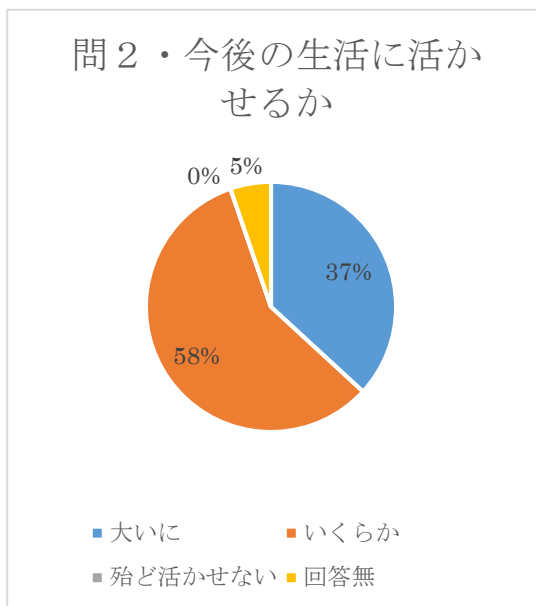
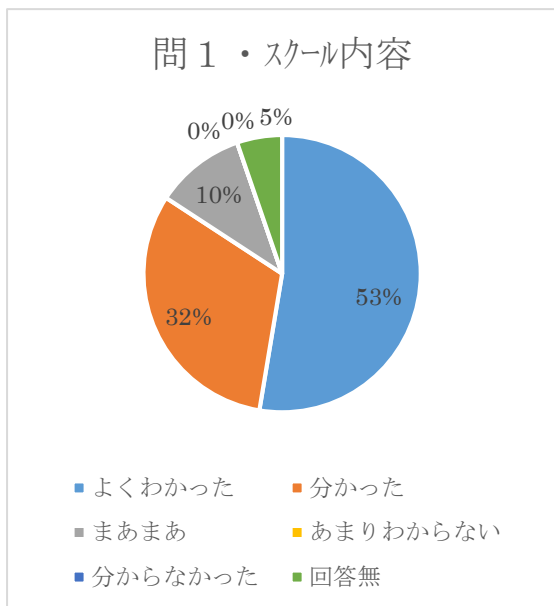


職業



- 学生 (市内)
- 会社員 (市内)
- 学生 (県内)
- 会社員 (県内)
- 学生 (県外)
- 会社員 (県外)
- 大学関係者 (市内)
- その他
- 大学関係者 (県内)
- 大学関係者 (県外)
- 回答無

② 内容について



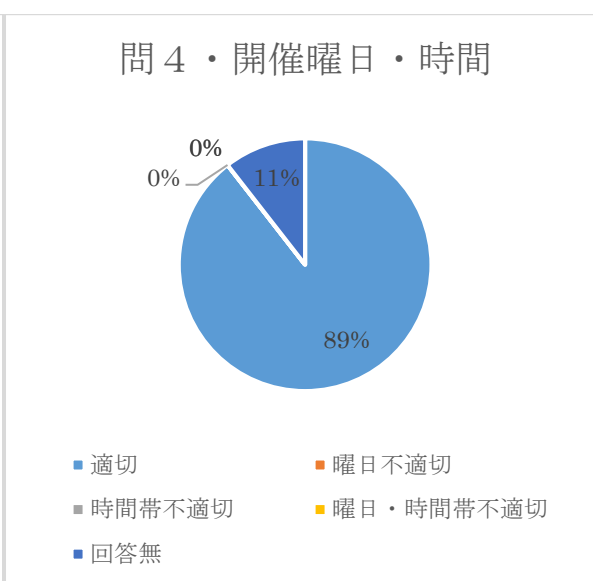
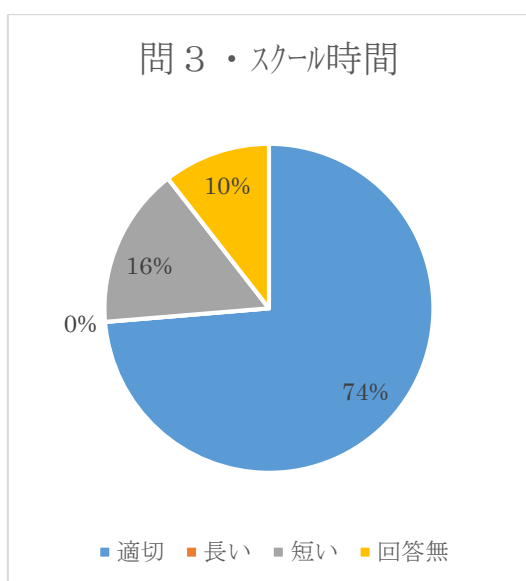
【自由記入欄回答】

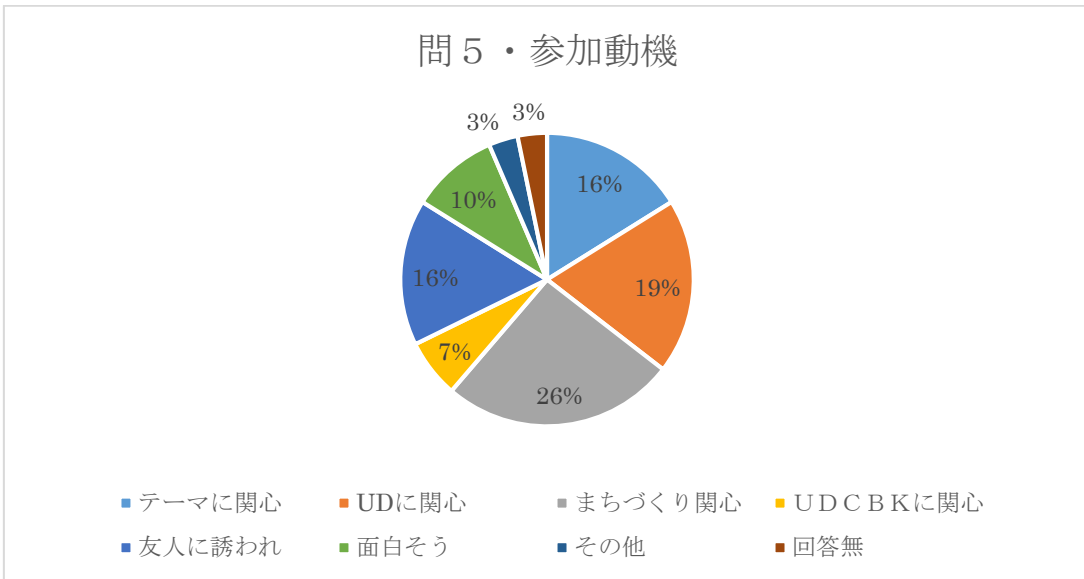
問3. 時間はどうでしたか。

- ・ 2時間が適切 (50代男性)

問4. 開催曜日、開催時間は適切でしたか。

- ・ 水曜日の18時頃が適切 (30代男性)
- ・ 土曜日の午後が適切 (40代男性)





【自由記入欄回答】

問5. 今回参加した動機についてお聞かせください。それぞれに関心のあるテーマについて御自由に記載ください。

- ・行政の関わり（30代男性）
- ・都市と交通、都市と自然（20代男性）
- ・都市経営、地域経済（30代男性）
- ・街並の変化に着目した整理をしているように見えるのですが、変化した風景が定着したと判断できるまでの待ち時間は何年か？5～10年でしょうか？（60代男性）

【自由記入欄回答】

問6. 今回、印象に残ったこととその理由をお聞かせください。

・今日 共有されていた話題は、鞍田崇が言っていた「インティマシー」というものなのかなと思いつきながら聞かせていただきました。先生方の射程として小さな空間から都市に与える影響は「代がわり」を超えることができるとお考えですか？

知人が茶道好きの集まるシェアハウス、コミュニティ空間を運営していましたが、代がわりにより、周辺に及ぼされていた素晴らしい雰囲気はなかなか引き継ぐことが難しかった。ということがありました。

小さく「間にあるもの」なので、「大きなもの」にどう対応するかという課題は、岡昇平さんの言葉にもあるように重要だと感じています（30代男性）

・今回のスクールは「どのように南草津・草津に活かすか、草津をかえればよいか」というお話につなげようという流れが強いことに、大変興味深いと感じました。南草津にあまり魅力を感じない学生の一人として今後のスクールも参加したいと思いました（20代

女性)

・野毛問題として、ギャップ景観のプランニングと偶発性について 小空間の魅力向上させ、都市を良くする (40代男性)

・小さい空間から、都市をつくるイメージがわからなかったので 今日、詳しく聞けて少しわかったような。 次回以降きいて さらに理解したいです (40代男性)

・本の紹介・次も参加してほしい (30代男性)

・都市計画、まちづくりとは誰の何の為にあるのだろうかと改めて考えました。
高松の温泉の方は、おおげさなプロモーションはしたくないという所から、まちづくりをして、市民の生活が良くなって、経済が良くなる、にぎわいが出る、空間の質が良くなる、今の課題が解決する、それぞれの立場によってのまちづくりの価値、目的が違うのかなと思いました。どこを行政は目標値とすべきなのか。
終了する時間はとりあえず守ってもらいたい (30代男性)

・全国の各地の町づくりの映像

南草津はとても気に入っているが、(難しい話しは分からないので) 草津と違った町 (急に開発が進み、空間がある様でない。町そのものに深い思いの人や店が少ないなど) なので、もっと年を重ねても、居心地のよい、ゆったりとできる様な場所が町の中に増えてほしいと思っている。今後の話しの中で、もう少し南草津や草津に関わる話しも伺えたら、と思っているから (60代女性)